

重度の障害を持つ児の個別性に合わせた 生活援助を目指す看護チームの活性化 — 日常生活援助場面の動画を媒体とする 相互学習過程の分析より —

塩月 ゆかり (応用看護学)

【キーワード】 重度障害児施設・個別性・日常生活援助・動画映像教材・相互学習

本研究の目的は、施設に入所する重度障害児への日常生活援助場면을撮影し、その教材を媒体に行った相互学習における副師長としての自己の思考・判断・行動の特徴を明らかにして、看護実践の質の向上とチームの活性化につながる現場教育の在り方について示唆を得る事である。

研究対象は、研究者が副師長として所属する病棟において、児への日常生活援助場面の映像媒体を撮影し、看護チームで活用する過程での、児の反応および病棟看護師の言動と研究者自身の認識と言動である。研究方法は、通常勤務の中で、映像撮影や視聴する場면을フィールドノートに記述し、看護チームの活性化につながったと思われる場면을再構成した。再構成した研究素材を分析し、16場面における副師長の認識と行動の特徴87項目が取り出された。全項目の共通性と相違性を吟味して類型化し、重度障害児への看護実践の質の向上と現場教育の活性化につながる副師長の認識と行動の特徴7項目が明らかになった。

1. 転入間もない看護師と共に日常生活援助場面の映像を観て、児の機能障害の特徴と個別な援助方法を確認し合い、看護師自らの気づきが得られるように言葉を添え再生をくり返している。
2. 共に映像を観ている看護師の言葉をヒントにケアを受ける児の立場から映像を見直し、援助の僅かな違いと児の反応を発見し、脳の発達を促すケアの在り方を考えるチャンスを得ている。
3. 援助方法の疑問や困難性について他看護師から相

談を受けた時には、録画した映像と一緒に観て、ケアを受ける児の細かな表情や動きに着目し、より良い援助方法を共に探っている。

4. 摂食嚥下障害に関心の高い看護師に口腔ケアの実践を依頼し、その映像をチーム全体で共有する場を設け、看護師の疑問や意見を積極的に取り入れて援助方法を見直している。
5. 撮影を機に思わぬ反応を示した児の行動に感動し、その映像を観る機会を増やし、看護チーム全体で喜びと感動を共有し、児の発達を促すケアの在り方を探っている。
6. 映像を繰り返し観る事で、今まで気づけなかった児の反応や行動を裏付ける意思を感じ取り、児の持つ力を共有する機会を作り、援助を工夫する看護師の姿勢を支持している。
7. 歯科衛生士や言語聴覚士の専門的な知識と技術を、個別な児の看護援助に取り入れ、良い方法を探りつつ実施し、評価している。

以上から、日常生活援助の実際を撮影し、その映像媒体を活用した看護チームの取組は、＜看護師の相互学習を促進し、看護師個々の実践能力を高め、看護の充足感に繋がった。＞そして＜児の潜在能力の発見に喜び、発達の可能性に向けた援助の在り方を考える機会＞になり、＜看護者の看護観と人間観を発展させる機会＞となったことを確認した。